

## 愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：一般検査研究班 提出日：令和 4 年 2 月 27 日 報告者：長嶋 和子

行事種別	研究会	行事番号	210015133
開催日	令和 4 年 2 月 12 日 (土) ~25 日 (金)		
時間	開始	00 時 00 分	終了 23 時 59 分
場所	オンデマンド配信		
テーマ	令和 3 年度愛臨技精度管理報告会、AI と歩む医療現場の未来		
生涯教育履修点数	基礎教科 20 点		
司会	藤田医科大学病院 長嶋 和子		
講師	<p>1. 令和 3 年度愛臨技精度管理報告会</p> <p style="text-align: right;">公立西知多総合病院 服部 聡</p> <p style="text-align: right;">JA 愛知厚生連 稲沢厚生病院 蜂須賀 大輔</p> <p style="text-align: right;">日本赤十字社愛知医療センター 名古屋第二病院 野村 勇介</p> <p>2. AI と歩む医療現場の未来</p> <p style="text-align: right;">岐阜大学工学部電気電子・情報工学科</p> <p style="text-align: right;">同人工知能研究推進センター-医学系分野長 原 武史 教授</p>		
内容	<p>講演 1. で、令和 3 年度愛臨技精度管理報告会を行いました。尿定性検査において同一の結果でも測定機器の半定量値の範囲によって判定が A 判定と B 判定に分かれてしまい、特にその部分について説明しました。異論や更に説明を求める声は聞かれませんでしたので理解いただけたものと思います。フォトサーベイに関しては写真を提示しながら判断の根拠を説明しました。アンケート結果でも好評でした。</p> <p>講演 2. は AI について講演をして頂きました。一般検査領域の話ではありませんでしたが、精度管理報告会は他分野の会員も比較的多く参加することを考えてこの企画としました。事前に会員に質問を貰い、その回答を交えながら講演して頂きました。現在 AI がどの程度医療に貢献しているのか、未来展望はどうなっているのか、そもそも AI には何が出来て何が出来ないのか等を講演頂きました。参加者からは AI と上手に共存しながら技師がやれることを見極めることが必要だという感想を頂きました。理系分野の講演でやや難しい部分もありましたが、多くの方に興味を持って視聴して頂きました。</p>		
参加者	総数：121 名（会員 78 名、県外会員 41 名、非会員 2 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名）		
共催、後援など	なし		